

総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会小委員会の設置について

分科会等名：老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>我が国は、日本国内に埋設されている老朽化学兵器並びに旧日本軍が中国に遺棄した化学兵器を安全に廃棄する義務を負っている。しかし、これらの化学兵器の発掘や廃棄処理の際、内蔵する火薬類の燃焼・爆発や有害な化学物質等の漏えいなど多くのリスク懸念があり、安全な処理が課題である。</p> <p>また、ヒ素をはじめとする元埋設地周辺等の土壌・水源汚染の浄化など、環境保全の意識の高まりもある。なお、廃棄処理に従事した官民実務者の世代交代が進んでおり、安全安心な事業推進の現場知やノウハウの継承も課題である。</p> <p>さらに、新たな国際紛争やテロ等、従来の想定に無い化学兵器のリスクも懸念されるという海外の状況も踏まえ、安全で効率的な廃棄の進捗を促し、実際に生じている問題点を指摘する必要がある。</p> <p>本小委員会では、これらの課題について学際的な視点から学術的に評価し、必要な提言を行うことを目的とする。</p> <p>なお、日本学術会議の分科会等では、老朽・遺棄化学兵器を巡る課題解決に際してこれまで活発に議論が行われており、対外報告3回（平成13、14、17年）、提言2回（平成20、23年）、報告（令和元年）、記録（令和5年）を公表している。</p>

4	審 議 事 項	1. 化学兵器の安全な処理に関する総合的対策の指針 2. ヒ素を含む廃棄物処理の作業安全と環境保全の対策 3. 海外の化学兵器処理の現状・留意点 に係る審議に関すること
5	設 置 期 間	令和6年2月29日 ~ 令和8年9月30日
6	備 考	